

# 港湾課

港湾課ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/kouwan/>

鳥取港湾事務所ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/tottorikowan/>

## 令和6年度 事業費

(単位：千円)

◆ 漁港管理費……………	155,692	◆ 直轄港湾事業費負担金……………	24,922
◆ 港湾管理費……………	520,165	◆ 漁港施設災害復旧費……………	234,000
◆ 漁港建設費……………	675,632	◆ 港湾災害復旧費……………	324,100
◆ 港湾建設費……………	498,832	◆ 境港管理組合費……………	1,707,084
港湾課合計……………			4,140,427

## 1 港湾の整備

### 鳥取港

重要港湾「鳥取港」では、近年頻発する異常気象による主要航路（千代航路）・泊地の埋塞や港内静穏度不足、船舶大型化への対応等が課題となっており、抜本的な対策を講ずるため、令和2年11月に港湾計画を改訂しました。今後は港湾計画に基づいて、主要航路切り替えに必要となる防波堤整備、岸壁整備やふ頭用地の整備を進めるとともに、官・民・産・学が連携して港周辺エリアの賑わいづくりにも取り組みます。

令和2年度・令和3年度の2回、背後企業から要望のあったコンテナ取扱いの可能性を検証するため、コンテナ船の試験輸送を実施しました。試験輸送では、鳥取港に初めてコンテナ船が入港し、背後企業から集荷したコンテナ貨物の荷役作業を行い、博多港へ海上輸送し、コンテナ貨物が取扱える港であることを確認しました。引き続き、取扱貨物量の増加に向けて、関係者の海運利用への機運醸成を図っていくとともに、鳥取港利活用の可能性がある貨物の掘り起こしを進め、定期航路化に向けて取り組んでいます。

また、鳥取港振興会を中心としたクルーズ船や貨物船の誘致に取り組んでいます。

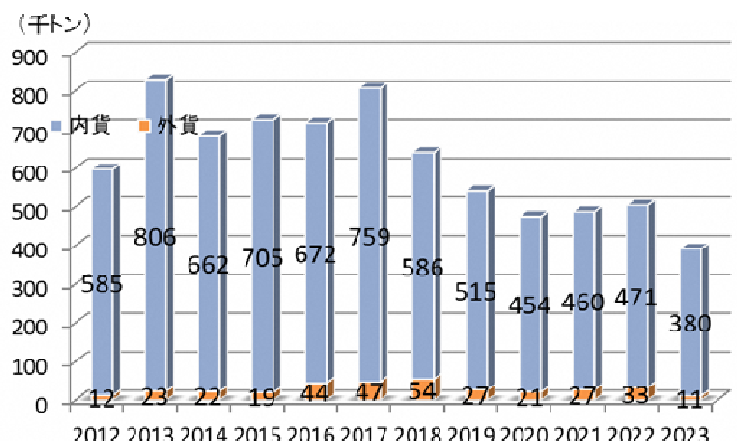


### クルーズ船



R6.4.15 入港(千代地区1号岸壁) ル・ソレアル

### 取扱貨物量



# 境港

重要港湾「境港」は、平成23年1月に山陰初となるリサイクルポートに指定され、同年11月に国際海上コンテナ・原木・外航クルーズの「日本海側拠点港」にも選定されています。また、近年ではクルーズ船の寄港が増加するなど、北東アジアゲートウェイ「境港」の物流・人流の拠点としての役割が増しています。

平成28年9月に中野地区国際物流ターミナルの供用が開始され、その後、竹内南地区貨客船ターミナル(境夢みなとターミナル)が令和2年4月に供用開始しました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、クルーズ客船の寄港が全国的に中止とされていましたが、令和3年4月16日に境夢みなとターミナルに邦船クルーズが初寄港し、令和5年3月からは国際クルーズ船の寄港も再開しました。令和5年は、クルーズ船に28回寄港いただき、引き続きクルーズ船の誘致に取り組んでいます。

令和3年7月には港湾計画を改訂、令和5年7月にはガントリークレーン2号機が供用を開始し、今後、新規岸壁の整備により港湾機能を強化していきます。

■竹内南地区 貨客船ターミナル (国・境港管理組合)



R5.6.25寄港 MSCベリッツマ

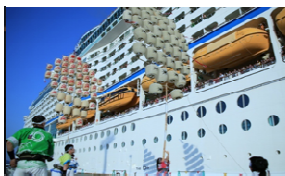
竹内南岸壁(水深 -10m、延長 280m) : 国交省  
ターミナル上屋、ふ頭用地 : 境港管理組合

■昭和南地区 新規岸壁整備 (国・境港管理組合)



新規岸壁整備  
国際コンテナターミナル  
コンテナ船  
チップ船  
R3.10~バイオマス船(最大6万DWT級)接岸開始

新規岸壁(水深 -12m、延長 230m) : 国交省  
ふ頭用地 : 境港管理組合



地元芸能によるおもてなしセレモニー



クルーズ船長と相撲を取る保育園児



### 国際フィーダー航路

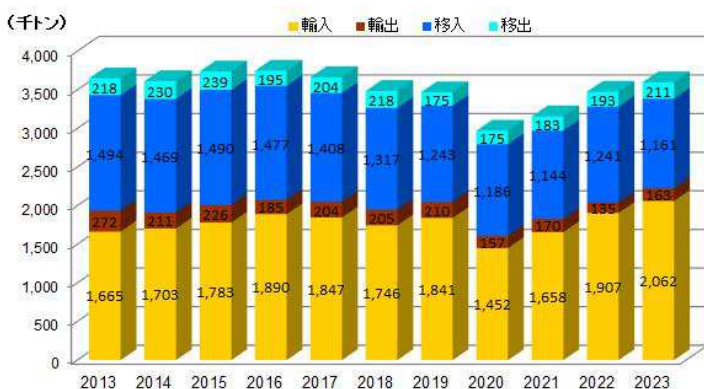
境港→神戸港経由で世界と接続



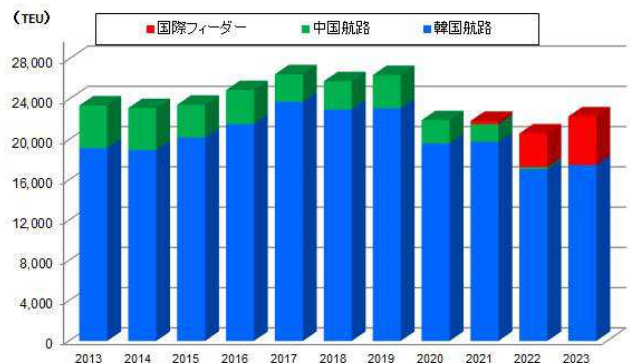
※2023年10月現在。

※最新の航路情報は境港貿易振興会HPでご確認ください。

## 取扱貨物量 (境港)



## コンテナ取扱量 (境港)



## 2 漁港の整備

### 境漁港

境漁港は、まき網漁業、ベニズワイガニかにかご漁業、沖合底びき網漁業、いか釣り漁業等の沖合漁業を中心とし、水産物取扱量は全国3位（120,109t：令和5年）、金額は全国5位（245.3億円：令和5年）を誇る全国有数の漁港です。

境漁港では、岸壁の耐震化などにより流通の拠点となる防災対応型漁港及び消費者の「安心・安全」のニーズに対応した高度衛生管理型市場を整備し、水産物の安定的な供給と、輸出など漁業の国際化にも対応できる力強い水産業を推進します。



### 漁港の維持管理

漁港は漁業活動の拠点として、沿岸地域の産業である水産業を支え、水産物を供給する重要な役割を担っています。しかし、建設後数十年が経過し、施設の老朽化が懸念されていることから、定期的に点検・修繕を行い施設の長寿命化に取り組んでいます。

また、しゅんせつ等の維持管理を通じて、地域水産業の支援や円滑な漁業活動の支援を行っています。

